

National Institute of Special Needs Education
NISE

難言教育における子どもとの関わり 及び教室経営の基礎・基本

国立特別支援教育総合研究所
牧野泰美
(2022.8.5/日言研講座)

国立特別支援教育総合研究所
NISE

1

1

1. はじめに

- 多様な角度から、多様な見方を！
- 子どもにコミュニケーションを求める大人（教師）の側は？
- 殻は破らないといけないか？

2

2

2. 子どもや保護者との関わりを考える

- 大人（教師）の見方が追いつめることも！
- 役立つ、喜ばれるということ
- 子どもの感性をまるごと・・・
- 子どものよさが見えているか？

3

3

- 個人化の時代に・・・
- いわゆる「マニュアル」を考える
- 個（子ども、保護者）に寄り添う
- 教師の見方・思いの背景、出どころは？
- 子どもとの関係は？

4

4

- 子どもへの視線は？
- 子どもの気持ちを見つめる
- 自分（教師）自身の気持ちを見つめる
- 力をつかう
- 本番を生きること／準備をすること

5

5

3. きこえとことばの教室で行う指導

- 障害による学習上又は生活上の困難の改善・克服を目的とする指導（「自立活動」に相当する内容）
 - ※ 通級による指導において、特に必要があるときは、障害の状態に応じて、各教科の内容を取り扱いながら行うことができる。
- 各教科等 ※特別支援学級の場合

6

6

4. 通級・個別のよさ

- たまに会う
- 十分なやりとり
- 比較しない
- 通常の学級とは異なっただまなざし
- 自己の発見
- 開く／閉ざす
- 自分で決める

7

7

5. きこえとことばの教室における指導・支援の視点

- 障害への対応(難聴、構音障害、吃音、言語発達遅れの遅れ、等)
- 障害による様々な能力の状態、困難への対応
- 自己、(自己の)障害についての学習
- 様々な対処法

8

8

- 自分を肯定できる、自分でもやっていけるといことへの対応(自己肯定感、自己有能感)
 - ・認められる、喜ばれる、役立つ実感／存在意義
 - ・自己決定
 - ・自己理解
 - ・仲間存在
 - ・モデル存在
- 回復力、立ち直る力
- 周囲との関係、コミュニケーション、交渉

9

9

- 子どもの興味・関心、暮らしの充実
- 周囲への理解啓発
- 家庭、保護者、通常の学級(担任)、管理職・教職員、関係機関等との連携
- 校内・地域、センター的機能

10

10

6. 「連携」を考える

- そもそもなぜ、つながるのか、連携するのか
- すべてを担うことはできない
- 連携すること、指導・支援を連携して行うこと
- 連携(チーム)としての力
- それぞれの機能とその充実
- 知ること、知らせること
- 連携する「人」たちとの相互理解・共通理解


11

11

- 連携する「人」たちとの協働
- 依頼や要請等の一方的なものでなく・
- 地域(あるいは難言設置校)における、教室の機能・役割を考える
- 地域の関係機関・社会資源を考える
- 教室担当者(自分)ができることを考える
- 通常の学級(担任)との連携(自校・他校)を考える

12


12



- 管理職や他の教職員との連携を考える
- 関係機関(福祉・医療等)との連携を考える
- 家庭(保護者)との連携を考える
 - ・保護者が背負っているもの、背景、しがらみ
 - ・保護者の焦りや不安の出どころ
 - ・保護者の勇気と安心、暮らしの充実
- 支え合う仲間づくり、雰囲気づくり

13

13




- 子ども同士の支え合い、学び合い
- 保護者同士の支え合い、学び合い
- 教室担当者同士の支え合い、学び合い
- 活力が得られる実感
- 自らに返ってくるもの

14

14

7. 通常の学級との連携




- 通常の学級訪問(在籍学級訪問)
- 通常の学級担任との情報交換
- 通常の学級の担任者会
- 通常の学級担任の難言教室訪問
- 理解啓発授業
- 在籍学校の校内支援体制への関与
- 子どもの負担軽減の取組
- 子どもと学級担任をつなぐ
- 子どもと周囲の子どもをつなぐ

15

15

8. 通常の学級との連携 を機能させるために




- 通級する子どもの思いの把握
- 通級する子どもとの十分な話し合い
- 通級担当者の活動に対する設置校の理解
- 通常の学級の実態や雰囲気の把握
- 通常の学級担任の学級経営や教育実践の把握
- 通常の学級担任の抱えている課題、意識の把握
- 子ども理解や関係構築の視点の提供
- 共に学ぶ研修の工夫
- 頼れる存在に！

16

16


9. きこえとことばの教室の 業務



- 事務管理内容に関すること
 - ・入退級事務管理及び教室児童生徒名簿管理に関すること
 - ・教育課程、指導計画等事務管理に関すること
 - ・備品購入保管事務管理に関すること
 - ・経理・予算事務管理に関すること
- 教育内容に関すること
 - ・教育課程、個別の指導計画の作成に関すること
 - ・教室行事企画に関すること

17


17



- 保護者との連携に関すること
 - ・保護者会・保護者面談の企画運営に関すること
 - ・親の会との連携に関すること
- 設置校の校内組織との連絡調整に関すること
 - ・管理職との連絡調整に関すること
 - ・教育相談分掌との連絡調整に関すること
 - ・特別支援教育分掌との連絡調整に関すること

18


18



- 在籍校(在籍学級)及び地域の各学校との連絡調整と連携に関すること
 - ・在籍校訪問、在籍学級担任会の企画運営に関すること
 - ・地域の各学校への情報提供及び理解啓発に関すること
- 教育相談、入級相談・就学相談に関すること
 - ・教育相談の企画・運営に関すること
 - ・入級相談・就学相談の実施に関すること

19

19




- 外部機関等との連絡調整と連携に関すること
 - ・教育委員会との連絡調整に関すること
 - ・医療機関等関連機関との連携に関すること
 - ・難聴・言語障害教育関連団体との連携に関すること
- 研修・研究に関すること
 - ・教室研究、教室研修の企画に関すること
 - ・外部研修の情報収集及び参加計画に関すること

20

20

10. 多くの教室が行っている活動




- 通常の学級訪問(特に自校通級の場合)
- 通常の学級担任との個別面談
- 設置校内や市区町村の支援委員会関係
- 通級児以外の子どもの指導・支援に関する相談
- 行政や管理職への教室の充実に向けた働きかけ
- 都道府県単位の研究会・研修会への参加
- 教室要覧・パンフレット等の作成・配布
- 保護者との個別面談

21

21


11. きこえとことばの教室の担当者に求められること



- 本人、保護者の思い、考え、その背景、出どころを考える。
- ウォンツ？ ニーズ？
- 客観的な状態、状況、情報を伝える。
- じっくり聞く、じっくり話し合う、「対話」する、一緒に考える。
- 担当者は一緒に考える、学ぶパートナーといえる。

22


22



- 考える視点を提供する。
- 向き合い方を見つけるのは本人である。
- 難聴・言語障害のある自分を見つめ(個に応じて自分を捉え)、そのような自分がどうやって過ごすか、どう存在していくか、どう生きていくかを考える。あるいは、考えていくための手がかりを見つける。
- そのための実践は、多様な姿・形があり得る。

23

23



- その実践の姿・形、子どもとの関わりのありようを、担当者は常に考える必要がある。ある意味、それを考えるのが仕事である。
- 子ども自身が、難聴・言語障害のある自分が生きていくために、自分が何を学んでいくとよいかを考えること、それを支える。
- これらの仕事は、まさに教育の本質でもある。
- 担当者の障害観、世界観が問われる。子どもは担当者のまなざし(担当者の障害観、世界観)を通して、自分を見つめることになる。

24

24

12. インクルーシブ教育システムの推進に向けて

- 子どものきこえやことば、発達に関わる**専門家**としての役割
- 連絡調整・連携・教育相談の力量や、特別支援教育の視点を有する**教員**としての役割

25

25

13. おわりに

- サービスと制度
- 悩みと工夫
- やわらかく..
- お互い様の精神

26

26

- 理解してくれる人とつながる
- 個別の意味
- できるということ
- 共通性と多様性
- 当事者の視点

27

27

- 子どもに学ぶ
- 生き方研究所
- ことばは ころを 超えない
- そばにいてくれるだけでいい

28

28

参考1： 子どもを見るということ

- 関わり手が子どもを見ることは、子どもに対して自己の世界を投影する面をもつ
- 見られる子どもの側は、関わり手の視点で自己を見つめることになる
- 両者の見方が不快な状態として固定したとき、コミュニケーション障害が生じる
- コミュニケーション障害は、子どもに対する関わり手の内面世界の構成により生じる

29

29

参考2:コミュニケーション(関係) がうまくいかないとき

- 関わり手が自身の主観に重ねて子どもを見ようとしていない
- 関わり手の目が子どもの問題点に焦点化される
- 周囲の誰かに原因を求める
- 関わり手自身の生活世界からの離脱
- 両者をとりまく物理的環境
- 教育・保育の場の制度や習慣

30

30

参考3:コミュニケーション関係 支援の視点

- 子どもの内面を解釈し、子どもの視点で周囲を捉える
- 子どもの行動を様々に解釈してみる
- 子どもの楽しみに充分つきあってみる
- 子どもの楽しみにつきあう中で、自分の楽しみも発見する
- 自分の楽しみを伝える
- その子らしさを肯定的に捉える
- 楽につきあえたときの自分の内面を振り返ってみる

31

31

参考4:振り返りの視点①

- 子どもにとって私は、話したい相手か？
- 子どもにとって私は、一緒にいたい相手か？
- 子どもと一緒に過ごすことを楽しみにできているか？
- 子どもに、自分の好きなものを伝えているか？
- 子どもに自分を開いているか？

32

32

参考5:振り返りの視点②

- 子どものことを思うとき浮かんでくる物・人・事柄
- 子どもとの最近の思い出、子どもに対する思い
- 私自身が好きな物・人・事柄、楽しんでいること、してみたいこと(特に子どもといっしょに)
- 子どもから見た私が好きな物・人・事柄
- 子どもが私を見ると、思い浮かべそうなこと
- 子どもが好きな物・人・事柄、楽しんでいること、したがっていること

33

33

文献

- 国立特別支援教育総合研究所(2010)言語障害教育における指導の内容・方法・評価に関する研究. 特教研B-250.
- 国立特別支援教育総合研究所(2012)言語障害のある子どもの通常の学級における障害特性に応じた指導・支援の内容・方法に関する研究—通常の学級と通級指導教室の連携を通して—. 特教研 B-274.
- 国立特別支援教育総合研究所(2015)「ことばの教室」ことばはじめ. 特教研D-333.
- 国立特別支援教育総合研究所(2020)特別支援教育の基礎・基本2020. ジアース教育新社.

34

34

- 牧野泰美(監修)阿部厚仁(編)(2007)言語障害のおともだち. ミネルヴァ書房.
- 牧野泰美(2015)言語障害教育. 柘植・木船(編著)改訂新版 特別支援教育総論, 放送大学教育振興会. 140-154.
- 牧野泰美(2017a)難言教育における子どもとの関わりと教室経営の基礎基本. 日本言語障害児教育研究会(編著)基礎からわかる言語障害児教育, 学苑社. 235-254.
- 牧野泰美(2017b)言語障害の特徴と支援. 指導と評価. 63巻12号.

35

35

- 牧野泰美(2019a)子どもと教師の関係づくり、子どもと教師のコミュニケーションを支える視点. 特別支援教育研究, 741号, 東洋館出版.
- 牧野泰美(2019b)子どもの育ちを支えるうえで大切にしたい視点. 特別支援教育研究, 742号, 東洋館出版.
- 牧野泰美(2021a)レジリエンスと関係論. 吃音臨床研究誌「スタタリング・ナウ」, 24号.
- 牧野泰美(2021b)子どもの「暮らし」、「生きるかたち」を支える難聴・言語障害教育, きこえとことば, 39号.
- 牧野泰美(2021c)ことばとコミュニケーションにかかわる障害. 特別支援教育の実践情報, 203号, 明治図書.

36

36

National Institute of Special Needs Education
NISE

ありがとうございました

国立特別支援教育総合研究所
牧野泰美
(2022.8.5/日言研講座)

国立特別支援教育総合研究所
NISE

37